



花粉交配用ミツバチの利用後は適切な処置を！

花粉交配用ミツバチを適切に扱い、伝染病のまん延を防止することで、持続的に養蜂と園芸生産を行うためのルールを紹介します。


腐蛆病検査済みのミツバチを購入しましょう

 腐蛆病検査証明書により陰性証明がされているミツバチの購入をお願いします。陰性証明がされていない場合、腐蛆病をまん延させる恐れがあります。


ミツバチは適切に管理、使用後も適切に処置しましょう

 花粉交配に使用したミツバチを放置しておく、ふそ病やダニの感染源となる可能性があります。花粉交配のために必要な時期が終わったミツバチは放置せず、**適切に返却・焼却**してください。

 特に**露地栽培**で使用する場合、病気のまん延のリスクが高まります。

 使用中にミツバチの様子がおかしいと感じた場合は、購入又はリース元の養蜂家に相談し、腐蛆病の疑いがある場合は、管轄の家畜保健衛生所に連絡してください。

園芸農家の方へ

 園芸農家の皆様へ 

ミツバチの伝染病についての知識を持ち、利用時の伝染病のまん延のリスクについて正しく理解し、適切な管理と利用後の焼却や返却を心掛けましょう。

適切な処置が、花粉交配用ミツバチの安定確保、さらには園芸作物の安定生産につながります。

北海道

園芸農家にも知ってもらいたいミツバチの病気

➤ 腐蛆病（ふそびょう）について

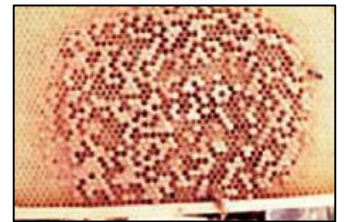
腐蛆病は腐蛆病菌（アメリカ腐蛆病菌・ヨーロッパ腐蛆病菌）により発症する疾病で、家畜伝染病予防法により法定伝染病に指定されています。蜂の幼虫が病原体を含む餌を摂取したときに、発症し死亡します。

まん延防止対策

腐蛆病の発生蜂群は焼却し、本病の蔓延を防止します。盗蜂（ミツバチが他の巣の蜜を盗む行為）も感染原因となるため発生群の適切な処理が必要です。



←アメリカ腐蛆病によって死亡した蜂児



↑ヨーロッパ腐蛆病によって死亡した蜂児

写真：（一社）日本養蜂協会

➤ バロア症（ダニ被害）について

バロア症はミツバチの外部に寄生するミツバチヘギイタダニによる疾病で、届出伝染病に指定されています。寄生したミツバチを弱らせて養蜂業に経済的被害を与えています。

まん延防止対策

まん延防止には成蜂や蜂児の移動禁止などの管理対策が必要です。また、寄生したダニを駆除するため、殺ダニ剤による薬剤処理等の対策を行います。



ミツバチヘギイタダニ